

## 5.4 音圧レベル指示値の読み取り方法

### 5.4.1 G特性音圧レベル

#### (1) 変動の少ない低周波音

音圧レベルの変動が小さくほぼ一定とみなされる場合は、低周波音圧レベル計の指示値又はレベルレコーダによる記録値の平均値を読み取る。

測定時に風が吹いている場合には、風の影響がない測定時間における平均値を読み取る。

#### (2) 変動する低周波音

(a) 対象の低周波音による指示値が大きくなる時に注目し、そのときの最大値を適当な回数について読みとる。

(b) 特定の測定時間内(例えば10分間)の最大値及びパワー平均値をレベル処理器等で求める。

但し、測定時に風が吹いている場合で風雑音により低周波音圧レベル計の指示値又はレベルレコーダによる記録値が変動する場合には、原則として指示値又は記録値の読み取りはできない。

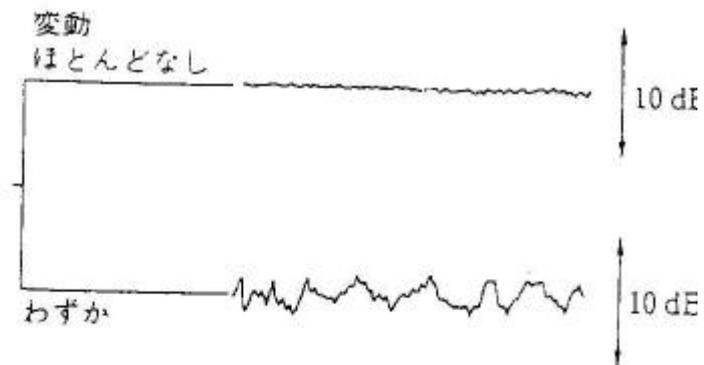
#### (3) 単発的又は間欠的に発生する低周波音

単発的に発生する低周波音を測定する場合は、発生時の最大値を読み取る。間欠的に発生する場合は、発生ごとの最大値を読み取る。

測定時に風が吹いている場合には、風の影響がない測定時間における発生音の最大値を読み取る。

低周波音の音圧レベルの時間変動の例を図-5.4に示す。

(1) 変動の少ない低周波音



(2) 変動する低周波音



(3) 間欠的単発的に発生する低周波音

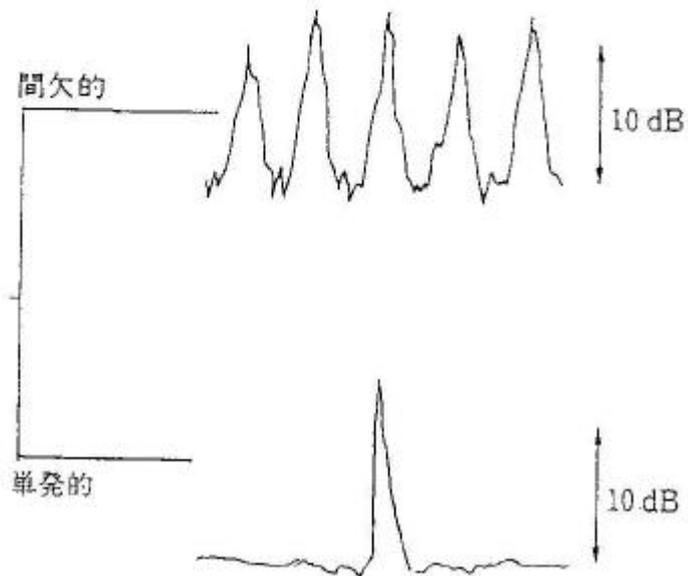


図-5.4 低周波音の音圧レベルの時間変動の種類

#### 5.4.2 1/3 オクターブバンド音圧レベル

##### (1) 変動の少ない低周波音

音圧レベルの変動が小さくほぼ一定とみなされる場合は、平均値を実時間周波数分析器等によって求める。測定時に風が吹いている場合には、風の影響がない特定の測定時間内（例えば 1 分間）のパワー平均値を実時間周波数分析器によって求めてもよい。

##### (2) 変動する低周波音

- (a) 対象の低周波音による指示値が大きくなる時に注目し、そのときの最大値を適当な回数について読み取る。実時間周波数分析器では、ある測定時間内の最大値を求めることができる。あらかじめレベルレコーダ等で最大値の発生時刻を確認しておき、最大値の前後で音圧レベルが最大値より 5 ~ 10dB 程度小さい測定時間内の最大値を実時間周波数分析器によって求める。
- (b) 特定の時間内の最大値及びパワー平均値を実時間周波数分析器によって求める。特定の測定時間内（例えば 10 分間）の最大値及びパワー平均値をレベル処理器等で求める。

但し、測定時に風が吹いている場合で風雑音により対象とする低周波音の周波数特性に影響がある場合には、原則として指示値又は記録値の読み取りはできない。

##### (3) 単発的又は間欠的に発生する低周波音

単発的に発生する低周波音を測定する場合は、発生時の最大値を読み取る。間欠的に発生する場合は、発生ごとの最大値を読み取る。

測定時に風が吹いている場合には、風の影響がない測定時間における発生音の最大値を読み取る。

## 5.5 測定結果に付記すべき事項

測定結果に付記すべき事項は騒音測定の場合と同様である。必要に応じて次の事項を付記する。

- (1) 測定者
- (2) 測定日時
- (3) 気象条件（天気，温度など）
- (4) 測定場所（測定位置，測定高さ、室内外、窓の開閉など）
- (5) 周囲の状況（地図，概略図など）
- (6) 測定器（種類，型式，製造業者名など）
- (7) 測定者の低周波音に対する所感・印象、その他気付いたこと